

環境検討部会（第1回） 議事概要

1. 日時：平成29年3月13日（月） 11：00～12：45
2. 場所：道の駅思川 小山評定館
3. 議事概要

事業計画で保全対象種が決められているが、必要に応じて保全対象種を追加したいという意見があり、本年度の生き物調査において新たな種が出てきた場合には、今後の部会で議論していくこととなった。

豊穂川排水路・小山栃木排水路の環境配慮については、国営事業の工事内容が補修程度であるため、豊穂川排水路・小山栃木排水路は、環境検討部会の検討から外す。

栃木南部地区では、ナマズが至るところで確認されており、地区の代表的な生き物であるため保全対象種に入れることを今後検討したい。ただし、アメリカナマズや高麗（こうらい）ギギというナマズに似た外来種が地区内で近年多く確認されてきたので、生き物調査で注意が必要である。

保全対象種の魚類について、季節毎にどこをすみかとして、どの水路を移動しているのかをみて、生態系ネットワークを把握してから環境配慮対策を考えると無駄なく検討が出来るのではないかという意見があった。

魚類の移動経路を把握するのは非常に難しいので、今までの生き物調査等のデータを活用した生態系ネットワークの推定や、これも元にした環境配慮地点の検討が必要である。

栃木南部地区は扇状地の様な地形であると思われる。このことから、湧水を推定する上で地下水の流れが調査出来れば良いという意見があり、調査が可能な検討する。

水路の法面の一部を井桁水路にすることで、魚の生息場、両生類の越冬場になる。また、湧水が出ている地点において井桁ブロックを入れることで従来のように湧水が出て、従来の水質が確保され则认为られるとの意見があった。

準絶滅危惧種であるナガエミクリは、栃木南部地区でここ10年間激減しており、外来種であるオオカナダモ、コカナダモが非常に多くなっている。ナガ

エミクリが生育出来るように、水抜き穴を兼ねた水草が生えるような部分を少しつくとナガエミクリが生息しやすくなるのではないかとの意見があった。

メダカやタモロコは、ちょっとした深場があればそこで越冬することが出来るので、水路の一部でいいのでちょっと深みをつくって小さな魚の越冬場をつくることも出来るのではとの意見があった。

地元からは排水路の維持管理の軽減の意見が強く、事業計画では底張をコンクリートとしている。また、維持管理用のスロープ設置も考慮している。

環境配慮対策の検討はこれらの前提があることを踏まえて行うこととする。

部会での議事内容は、現在、栃木南部事業所において、ホームページを作成中で、完成次第、議事概要を掲載することとなった。